

## スラグせっこう板の JIS 規格

### 繊維強化セメント板 JIS A5430:2013 (スラグせっこう板関係のみ抜粋)

Fire reinforced cement boards

#### 1 適用範囲

この規格は、石綿以外の繊維で強化成形したスレート（波板及びボード）、けい酸カルシウム板及びスラグせっこう板（以下、繊維強化セメント板と総称する。）について規定する。

#### 2 引用規格

次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格のうちで、西暦年を付記してあるものは、記載の年の版を適用し、その後の改正版（追補を含む。）は適用しない。西暦年の付記がない引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

**JIS A 1129-1** モルタル及びコンクリートの長さ変化測定方法-第 1 部:コンパレータ方法

**JIS A 1321** 建築物の内装材料及び工法の難燃性試験方法

**JIS A 1408** 建築用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法

**JIS A 1412-1** 熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法-第 1 部:保護熱板法 (GHP 法)

**JIS A 1412-2** 熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法-第 2 部:熱流計法 (HFM 法)

**JIS A 1435** 建築用外装材料の凍結融解試験方法

**JIS A 9510:2009** 無機多孔質保温材

**JIS B 7502** マイクロメータ

**JIS B 7507** ノギス

**JIS B 7512** 鋼製巻尺

**JIS B 7516** 金属製直尺

**JIS B 7518** デプスゲージ

**JIS B 7526** 直角定規

**JIS K 1464** 工業用乾燥剤

**JIS K 8123** 塩化カルシウム（試薬）

#### 3 用語及び定義

この規格で用いる主な用語及び定義は、次による。

##### 3.1 受渡試験 (acceptance test)

製品が規格に適合していることを確認するために、連続して製造された製品に対して行う試験。

##### 3.2 形式試験 (type test)

新製品を設計・製造した場合又は製品の技術的な製造条件を変更した場合に行う試験。

#### 4 組成

繊維強化セメント板の組成は、セメント、石灰質原料、けい酸質原料、スラグ、せっこう及び石綿以外の繊維を主原料とし、更に補強材及び充填材、顔料などの混和材料を加えてもよい。

#### 5 種類及び種類の略号

繊維強化セメント板の種類、種類の略号、原料及び主な用途は、表 1 による。

表 1-種類及び種類の略号

	種類	種類の略号	原料	主な用途
スラグせっこう板	0.8 スラグせっこう板	0.8SGI	セメント,スラグ,せっこう,石綿以外の繊維,	内装用
	1.0 スラグせっこう板	1.0SGI	混和材料	
	1.4 スラグせっこう板	1.4SGI		

#### 6 品質

##### 6.1 外観

繊維強化セメント板の外観は、目視によって試験したとき、表 2 に適合しなければならない。

表 2 - 外観の欠点の種類及び判定

欠点の種類	判定
割れ及び貫通亀裂	あってはならない。

##### 6.2 曲げ破壊荷重 省略

##### 6.3 曲げ強さ

スラグせっこう板の曲げ強さは、9.3.2 によって試験したとき、表 6 の規定に適合しなければならない。

##### 6.4 吸水率 省略

##### 6.5 かさ密度

スラグせっこう板のかさ密度は、9.5 によって試験したとき、表 6 の規定に適合しなければならない。

##### 6.6 透水性 省略

##### 6.7 吸水による長さ変化率 省略

##### 6.8 熱伝導率 省略

##### 6.9 難燃性又は発熱性

スラグせっこう板の難燃性又は発熱性は、9.9 によって試験したとき、表 6 の規定に適合しなければならない。なお、難燃性又は発熱性のいずれを選択するかは受渡当事者間の協定による。

6.10 耐凍結融解性 省略

6.11 耐温水浸せき性 省略

6.12 耐加熱散水性 省略

6.13 耐乾湿性 省略

表 6 - スラグせっこう板の特性

種類	厚さ mm	受渡試験（必須）		形式試験（必須）
		かさ密度 g/cm <sup>3</sup>	曲げ強さ N/mm <sup>2</sup>	難燃性又は発熱性
0.8 スラグせっこう板	5	0.60 以上 0.90 未満	7.5 以上	難燃 1 級 又は 発熱性 1 級
	6		7.0 以上	
	8			
	10			
	11			
	12			
1.0 スラグせっこう板	5	0.90 以上 1.20 未満	10.5 以上	
	6		9.5 以上	
	8			
	10			
	11			
	12			
1.4 スラグせっこう板	5	1.20 以上	16.5 以上	
	6		13.5 以上	
	8			
	10			
	11			
	12			
<b>注記</b> 製造方法によって繊維に配向性のある場合、繊維の流れ方向に平行に荷重を加えた場合の曲げ強さは、繊維の流れ方向に直角に荷重を加えた場合の実測値の約 60%程度である。				

## 7 形状、寸法及び許容差

7.1 スレート（波板） 省略

## 7.2 スラグせっこう板

スラグせっこう板の寸法及び許容差は、次による。

- a) **長さ及び幅** 長さ及び幅は、**9.2.2 a)** の方法によって測定したとき、**表 8** 及び**表 9** の規定に適合しなければならない。
- b) **厚さ** 厚さは、**9.2.2 b)** の方法によって測定したとき、**表 9** の規定に適合しなければならない。
- c) **直角度** 四隅の直角度は、**9.2.2 c)** の方法によって測定したとき、**表 9** の規定に適合しなければならない。
- d) **直線度** 切断面の直線度は、**9.2.2 d)** の方法によって測定したとき、**表 9** の規定に適合しなければならない。

表 8 - スラグせっこう板の長さ及び幅の寸法

単位 mm

長さ <sup>d)</sup>	幅 <sup>d)</sup>				
	455	606	910	1000	1210
910			SGI <sup>e)</sup>		
1820			SGI		
2000				SGI	
2420		SGI	SGI		SGI
2730		SGI			
3030	SGI				

注 c) SGI は、0.8SGI, 1.0SGI 及び 1.4SGI を示す。  
d) 規定寸法以外の製品の長さ及び幅は、受渡当事者間の協定によって定めるものとする。

表 9 - スラグせっこう板の厚さ及び寸法の許容差

単位 mm

種類	厚さ	許容差		直角度 (mm/m)	直線度 (mm/m)
		厚さ	長さ及び幅		
スラグせっこう板	5	±0.3	0 - 3	4 以下	3 以下
	6	±0.4			
	8				
	10	±0.5			
	11				
	12				

8 試験 省略

9 試験方法 省略

10 検査 省略

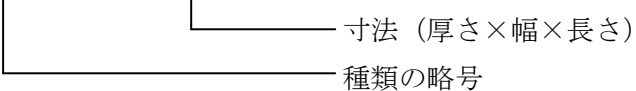
## 11 製品の呼び方

繊維強化セメント板の呼び方は、次の例による。

例 1～例 3 省略

例 4 スラグせっこう板でかさ密度 1.0 の場合

1.0SGI - 6×910×1 820



寸法 (厚さ×幅×長さ)

種類の略号

## 12 表示

この規格の全ての要求事項に適合した繊維強化セメント板には、次の事項を表示をしなければならない。ただし、a)及び f)~h) については、送り状その他の適切な方法でもよい。

a) 規格番号

b) 種類の略号

c) 石綿を使用していない旨の表示

d) 製造年月日又はその略号

e) 製造業者名又はその略号

f) 寸法

1) 省略

2) スラグせっこう板の場合は、厚さ×幅×長さ

g) 形式試験 (任意) に合格したものは、合格試験名を表示してもよい。

h) 難燃性試験又は発熱性試験の種類及び等級